国家試験過去問　分野別まとめ

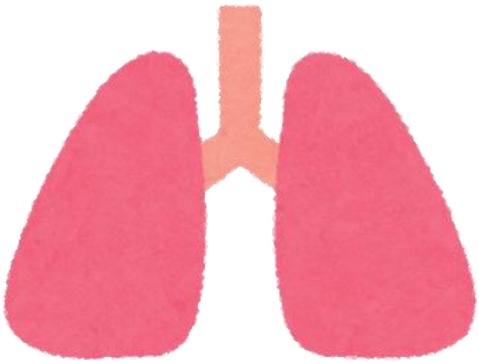
呼吸器

（第何回目―問題番号―教科書の記載ページ）

解剖学、生理学

臨床医学総論、臨床医学各論

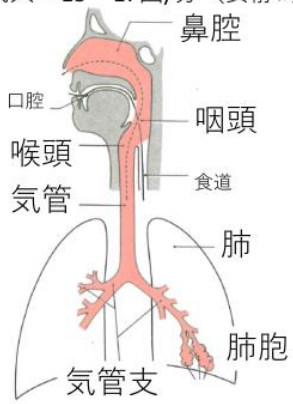
東洋医学臨床論、経絡経穴学



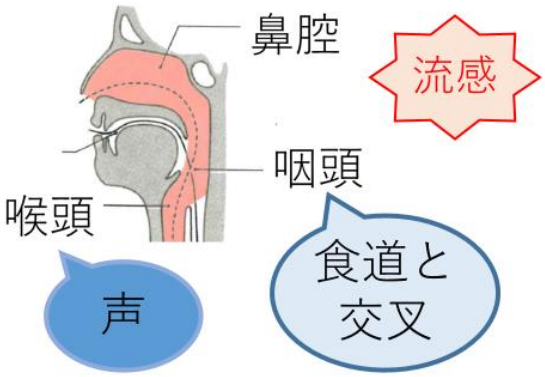
作成：仲村

解剖学

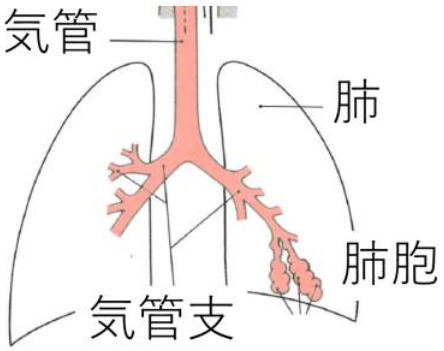
【概論】成人：15～17回/分（安静時）約8,000㎖



【上気道】鼻腔→咽頭→喉頭



【下気道】気管→気管支→肺

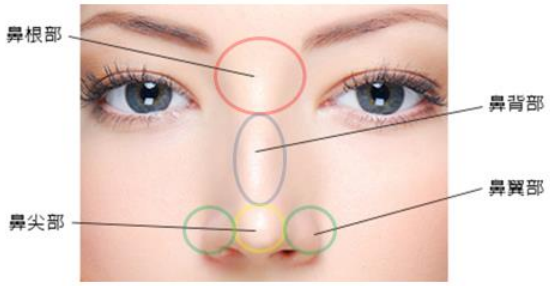


第1章人体の構造(P10)【上皮組織の分類】

上皮組織名	例
単層扁平上皮	血管内皮、リンパ管内皮、肺胞壁、漿膜(腹胸膜)
重層扁平上皮	表皮、口腔、食道、直腸下部
単層立方上皮	甲状腺、尿細管
単層円柱上皮	胃腸の粘膜上皮、子宮内膜
重層円柱上皮	尿道
多列円柱腺毛上皮	鼻腔、気管、気管支、卵管
移行上皮	腎盂、尿管、膀胱 ➡尿の充満度により層の厚さ(細胞の数)に変化が起こる

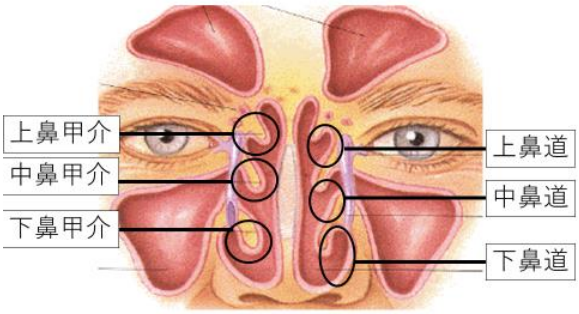
1．鼻腔・副鼻腔

外鼻（鼻根、鼻背、鼻翼、鼻尖）

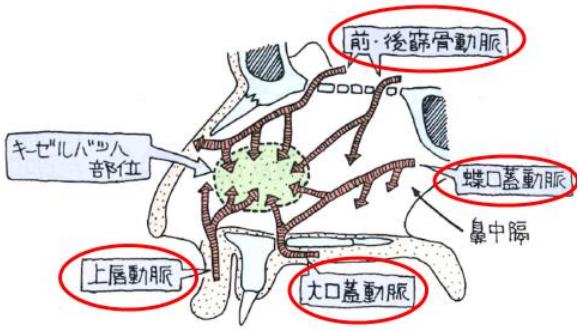


1）鼻腔

（1）鼻道

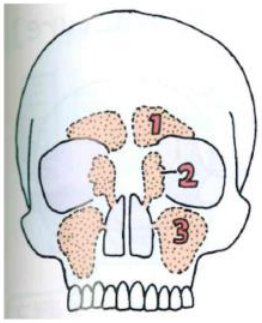


（2）鼻粘膜



2）副鼻腔

➡頭蓋骨の中の空洞で、鼻腔と交通してるもの。



1 前頭洞
2 篩骨洞（蜂巣）
3 上顎洞
4 蝶形骨洞＊

＊前からはみえない

1．鼻腔・副鼻腔

1）2）まとめ

鼻甲介	鼻道（右）		
		(後上方：嗅上皮・蝶形骨洞)	鼻中隔
上鼻甲介			
	上鼻道(篩骨洞後部)		
中鼻甲介			
	中鼻道(前頭洞、篩骨洞、上顎洞)	総鼻道 キーゼルバッハ部位（リトル部位）	
下鼻甲介			
	下鼻道(鼻涙管)		

2．咽頭・喉頭

1）咽頭

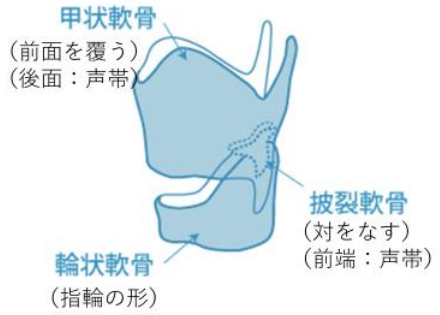
➡頭蓋底にはじまり、頚椎のすぐ前を漏斗状に細くなって下がり、食道につながる横紋筋(咽頭筋)でできた袋である。

➡前面には後鼻孔・口峡・喉頭口が開く

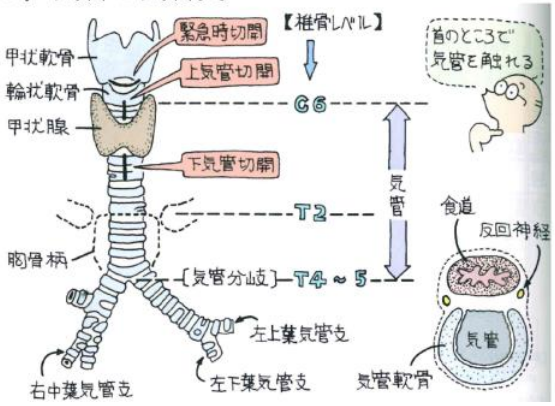
➡鼻部、口部、喉頭部に分けられる

➡鼻部には耳管が開口 (耳の気圧調整)

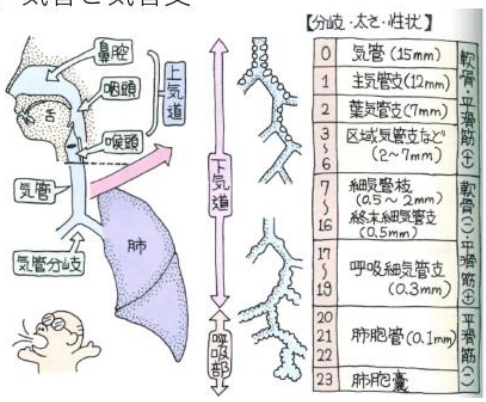
2）喉頭



3．気管と気管支



3．気管と気管支



4．肺

1）肺葉

左2葉,右3葉(心臓があるので左の方が小さい)

2）肺区域

左9区域(7がない.心切痕),右10区域(水平裂)

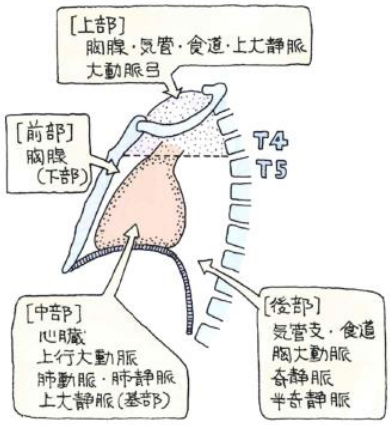
3）肺胞

肺胞壁(呼吸上皮)でガス交換が行われる。

4）胸膜

臓側胸膜は肺門で壁側胸膜に移行し、胸膜腔(少量の漿液で満たされ、呼吸運動に伴う肺の自由な動きを可能にしている)という腔所をつくる。

5）縦隔



5）縦隔：左右は肺に囲まれる

（前方）胸骨	胸郭上口					（後方）脊柱
	縦隔上部 胸腺、気管、食道、大動脈弓、上大静脈					
	心臓上部（Th4/5）					
	縦隔前部 胸腺(下部)	心臓前面	**縦隔中部** 心臓 上行大動脈 肺動脈幹 上大静脈(基部) 横隔神経	心臓後面	**縦隔後部** 気管支 食道、胸管 胸大動脈 奇静脈 迷走神経 交感神経管	
	横隔膜					

【鼻腔】

1. 上顎洞が開口する部位はどれか。
(1-22-P63)
①総鼻道
②上鼻道
③中鼻道
④下鼻道

2. 上気道への開口部について誤っている組合せはどれか。(2-20-P63)
①上顎洞―――中鼻道
②前頭洞―――上鼻道
③鼻涙管―――下鼻道
④耳管―――咽頭

3. 鼻腔について誤っている記述はどれか。
(6-22-P63)
①鼻甲介によって左右に分けられる。
②副鼻腔は鼻道と交通する。
③下鼻道に鼻涙管が開口する。
④口蓋で口腔と境される。

4. 鼻腔について誤っている記述はどれか。
(15-22-P63)
①鼻中隔の両面は鼻粘膜に覆われる。
②中鼻道は中鼻甲介の上方にある。
③鼻腔の下壁は口蓋である。
④後鼻孔は咽頭に開口する。

5. 下鼻道に開口するのはどれか。
(18-20-P152、203、204)
①耳管
②上顎洞
③蝶形骨洞
④鼻涙管

6. 鼻腔について正しいのはどれか。
(24-23-P63)
①キーゼルバッハ部位は鼻腔の外側壁にある。
②鼻前庭は単層円柱上皮で覆われる。
③蝶形骨洞は中鼻道に閉口する。
④嗅上皮は総鼻道の上部にある。

7. 肺静脈について正しいのはどれか。
(27-20-P66)
①弁がある。
②右肺門では 2 本みられる。
③組織学的には弾性血管に分類される。
④左心房に流入する前にすべてが合流する。

8. 鼻腔について正しいのはどれか。
(27-21-P152)
①キーゼルバッハ部位は上鼻道にある。
②嗅上皮は中鼻道にある。
③鼻涙管は下鼻道に開口する。
④鼻粘膜は重層扁平上皮からなる。

1③、2②、3①、4②、5④、6④、7②、8③

【咽頭】

1.咽頭について誤っている記述はどれか。
(5-22-P64、76)
①咽頭筋は平滑筋からなる。
②咽頭扁桃は咽頭上部にある。
③後鼻孔で鼻腔とつながる。
④脊柱の直前に位置する。

【喉頭】

2.喉頭を構成する軟骨で対をなすのはどれか。(11-21-P65)
①甲状軟骨
②披裂軟骨
③喉頭蓋軟骨
④輪状軟骨

3.喉頭の軟骨のうち対をなすのはどれか。
(22-21-P65)
①喉頭蓋軟骨
②甲状軟骨
③披裂軟骨
④輪状軟骨

4.声帯について誤っている記述はどれか。
(10-24-P65)
①左右の声帯の間を声帯裂という。
②声帯と声帯裂とを合せて声門という。
③声帯筋は迷走神経により支配される。
④声帯は輪状軟骨に付く。

5.声帯筋が付着するのはどれか。
(12-24-P65)
①気管軟骨
②喉頭蓋軟骨
③輪状軟骨
④披裂軟骨

6.声帯靭帯が付着するのはどれか。
(23-21-P65)
①甲状軟骨
②喉頭蓋軟骨
③小角軟骨
④輪状軟骨

7.喉頭について誤っている記述はどれか。
(17-21-P65)
①甲状軟骨は輪状軟骨と関節する。
②喉頭隆起は甲状軟骨にある。
③披裂軟骨は対をなす。
④声帯靱帯は輪状靱帯につく。

1①、2②、3③、4④、5④、6①、7④

【気管・気管支】

1. 気管について正しい記述はどれか。
(4-21-P44)
①後壁は脊柱の接している。
②前方を大動脈弓が横切る。
③気管筋は骨格筋である。
④粘膜上皮は重層扁平上皮である。

2. 気管について誤っている記述はどれか。
(9-25-P77)
①喉頭の下方に続く。
②食道の後方に位置する。
③内面は粘膜で覆われる。
④気管軟骨は馬蹄形をしている。

3. 気管について正しい記述はどれか。
(19-21-P65)
①輪状軟骨の下縁に始まる。
②食道の後方にある。
③第 2 胸椎の高さで左右の気管支に分岐する。
④軟骨が全周を取り囲む。

4. 呼吸器について正しい記述はどれか。
(7-21-P77)
①上顎洞は上鼻道に開口する。
②声帯筋は平滑筋である。
③気管膜性部は食道に接する。
④左肺には水平裂がみられる。

5. 気管内面にみられるのはどれか。
(24-16-P10)
①多列線毛上皮
②単層立方上皮
③単層扁平上皮
④移行上皮

6. 気管支について正しい記述はどれか。
(20-22-P66)
①気管分岐部は第 1 胸椎の高さである。
②気管支壁は肺動脈によって栄養される。
③左気管支は 3 本の葉気管支に分かれる。
④右気管支は左よりも垂直に近く傾斜する。

1②、2②、3①、4③、5①、6④

【縦隔】

1. 縦隔内に存在しない器官はどれか。
(5-33-P68)
①食道
②肺
③心臓
④胸大動脈

2. 胸部の器官について後縦隔にあるのはどれか。
(18-19-P68)
①胸腺
②食道
③心臓
④大動脈弓

1②、2②

【肺】

1.肺について正しい記述はどれか。(3-22-P68)
①右2葉、左3葉からなる。
②胸膜腔は滑液で満たされる。
③臓側胸膜は肺尖で壁側胸膜に移行する。
④肺門は縦隔に面する。

2.肺について誤っている記述はどれか。
(8-21-P68)
①右肺には水平裂がみられる。
②肺の表面は臓側胸膜で包まれる。
③胸膜腔は滑液で満たされる。
④肺尖は鎖骨上方へ突出する。

3.肺について誤っている記述はどれか。
(14-23-P66)
①左肺は 2 葉に分かれる。
②表面は臓側胸膜に覆われる。
③肺静脈は右心房に入る。
④ガス交換は肺胞壁において行われる。

4.左右の肺について正しい記述はどれか。
(17-20-P50、68)
①左が右より容積が大きい。
②左には水平裂がある。
③右には心切痕がある。
④右は上大静脈に接する。

5.肺門を通るのはどれか。(29-19-P66)
①横隔神経
②気管
③気管支動脈
④胸管

1④、2③、3③、4④

生理学

1. 呼吸器系の構造と機能

1) 気道

交感神経亢進：平滑筋弛緩/管径の拡張

副交感神経亢進：平滑筋収縮/管径の収縮

2) 肺胞

ガス交換：肺胞気と毛細血管で行われる

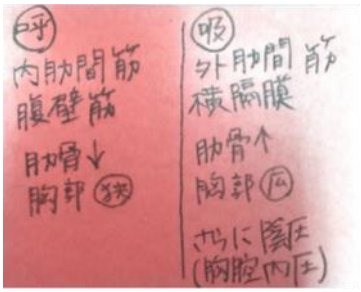
3) 胸郭

胸壁と横隔膜からなる。(解剖参照)

2. 呼吸運動

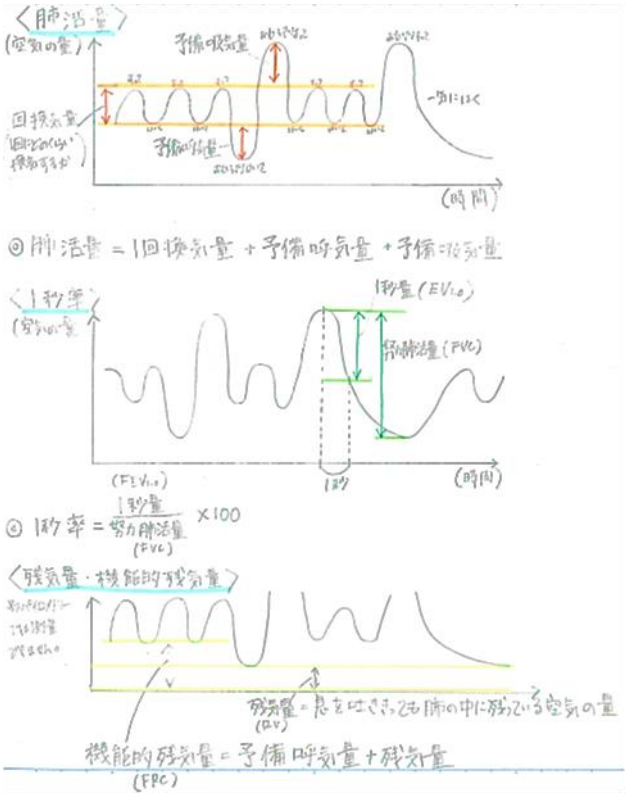
1) 吸息(すう)　2) 呼息(はく)

3) 胸腔内圧（胸膜腔内圧）



3. 肺機能

1) 肺気量



2) 呼吸数

成人：毎分 12~20 回(8L)/運動時は 10 倍

3) 肺換気量

分時肺胞換気量=(1 回換気量−死腔量)×呼吸数/分

4. ガス交換とガスの運搬

1) 吸気、呼気の組成

吸気：O_2 21%/CO_2 0.03%/N_2 78%

呼気：O_2 16%/CO_2 4%

2) 肺におけるガス交換

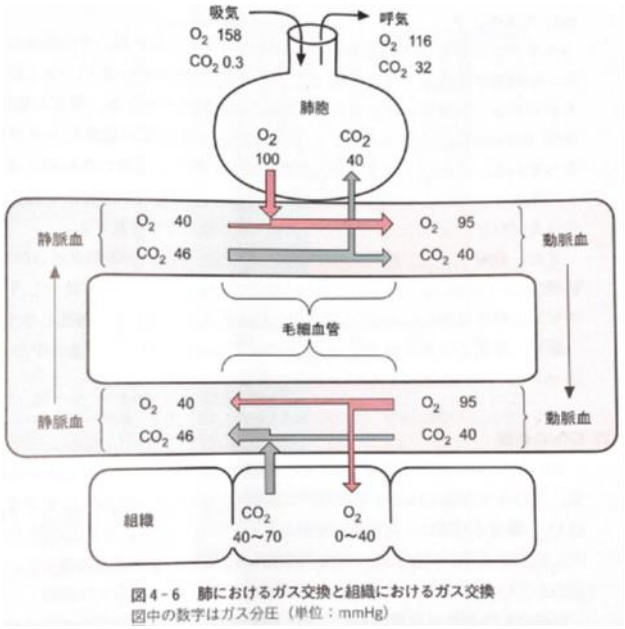


図 4-6　肺におけるガス交換と組織におけるガス交換
図中の数字はガス分圧（単位：mmHg）

3) 血液のガス運搬

(1)O2 の運搬

O_2 分圧が高いほど HbO_2 は増える。

血中の CO_2 濃度が増加すると、

ヘモグロビンの結合能力は減少する。

(2)CO2 の運搬

全 CO_2 の約 80%は毛中に重炭酸イオン(HCO_3^-)として存在し、約 10%は赤血球内のヘモグロビンと結合している。

(3)呼吸による体液の酸塩基平衡

・換気不足(CO_2が蓄積)→呼吸性アシドーシス

・過換気(CO_2が過度に排出)

→呼吸性アルカローシス

4) 組織におけるガス交換

血液と組織との間のガス分圧の差によって行われる。(図 4-6 参照)

5. 呼吸運動の調節

1) 呼吸中枢

・呼吸中枢:脳幹の延髄(網様体部分)に存在。
呼息中枢と吸息中枢を合わせたもの。

・呼吸調節中枢:脳幹の橋に存在。

2) 反射調節

(1)ヘ―リング・ブロイエルの反射

吸気により肺の伸展受容器➡迷走神経
➡呼吸中枢➡吸息中枢を抑制➡呼息に移行

(2)末梢性化学受容器と呼吸反射

頸動脈小体(頸動脈洞)や大動脈小体(大動脈弓)
➡血中の O2 分圧の減少、CO2 分圧の増大、pH の低下に反応➡呼吸運動が促進

(3)その他の反射性調節

くしゃみ反射:鼻粘膜の刺激

3) 大脳による呼吸の調節

意志による呼吸運動➡大脳からの指令

【異常呼吸】
①頻呼吸・徐呼吸
②過呼吸・減呼吸
③チェーン・ストークス呼吸
④ビオー呼吸
⑤クスマウル呼吸
⑥睡眠時無呼吸症候群

【1.呼吸器系の構造と機能】

1.気道を拡張させるのはどれか。(6-38-P56)
①気管線毛運動の亢進
②気管支平滑筋の収縮
③交感神経活動の亢進
④副交感神経活動の亢進

1③

4.肺活量を表す式として正しいのはどれか。
(19-37-P57)
①肺活量＝1回換気量＋予備吸気量＋予備呼気量
②肺活量＝1回換気量＋予備吸気量
③肺活量＝1回換気量＋予備呼気量
④肺活量＝予備吸気量＋予備呼気量

5.加齢に伴い低下するのはどれか。(25-33-P57)
①血圧
②肺活量
③副甲状腺ホルモン分泌
④血糖値

1④、2②、3③、4①、5②

【2.呼吸運動】

1.呼吸について正しい記述はどれか。(2-38-P57)
①1回換気量は吸気量と残気量との和である。
②肺活量は最大の吸気量である。
③安静呼気時に残気量はゼロになる。
④吸気時に胸腔内圧が更に陰圧となる。

2.吸気時の胸腔内圧について正しい記述はどれか。
(6-39-P57)
①大気圧より高い。
②大気圧より低い。
③肺胞気圧に等しい。
④肺胞気圧より高い。

3.健康成人の呼吸について誤っている記述はどれか。
(9-37-P57)
①一回換気量は約500mlである。
②予備呼気量は約1000mlである。
③機能的残気量は予備呼気量と残気量との差である。
④肺活量は最大の換気量である。

【3.肺機能】

1.酸素分圧が最も高いのはどれか。(11-34-P59)
①動脈血
②静脈血
③リンパ液
④肺胞気

2.分時肺胞換気量に関与しないのはどれか。
(14-36-P58)
①残気量
②1 回換気量
③死腔量
④呼吸数

3.正常呼吸と浅くて速い呼吸とを比べて変化しないのはどれか。(15-33-P58)
①死腔量
②一回換気量
③予備呼気量
④分時肺胞換気量

4.安静時の肺気量で最も少ないのはどれか。
(17-33-P58)
①1 回換気量
②残気量
③死腔量
④肺胞換気量

1④、2①、3①、4③

【4.ガス交換とガスの運搬】

1.血液の酸塩基平衡を保つのに重要なイオンはどれか。(3-36-P61)
①重炭酸イオン
②マグネシウムイオン
③カリウムイオン
④カルシウムイオン

2.酸素化ヘモグロビンが最も増加する酸素分圧はどれか。(4-38-P60)
①25mmHg
②45mmHg
③65mmHg
④95mmHg

3.血液のガス運搬について正しい記述はどれか。
(12-38-P61)
①酸素は主に水酸基として運ばれる。
②二酸化炭素は主に重炭酸イオンとして運ばれる。
③肺での酸素の移動は主にろ過による。
④組織での二酸化炭素の移動は主に能動輸送による。

4.呼吸について誤っている記述はどれか。
(13-38-P61)
①ヘモグロビンと酸素の結合能は炭酸ガス分圧が低い程高まる。
②胸腔内圧は陰圧である。
③肺胞の酸素分圧は動脈血の酸素分圧より低い。
④腹式呼吸の吸気時に横隔膜は収縮する。

5.血液中を二酸化炭素が運搬される際の存在様式で最も多いのはどれか。(17-31-P61)
①血漿蛋白と結合
②ヘモグロビンと結合
③重炭酸イオンとして溶解
④遊離二酸化炭素として溶解

6.肺における体液の酸塩基平衡に関与するのはどれか。(19-32-P61)
①酸素の吸収
②窒素の吸収
③二酸化炭素の排泄
④水分の排泄

7.血液の酸塩基平衡の保持に重要なイオンはどれか。(20-34-P61)
①カリウムイオン
②カルシウムイオン
③マグネシウムイオン
④重炭酸イオン

8.呼息時に起こるのはどれか。(25-29-P62)
①肋骨が挙上する。
②外肋間筋が収縮する。
③横隔膜が水平になる。
④胸腔内圧が上昇する。

9.安静吸息時に起こる現象はどれか。(27-29-P62)
①胸郭の縮小
②腹筋の収縮
③胸腔内圧の上昇
④外肋間筋の収縮

1①、2④、3②、4③、5③、6③、7④、8④、9④

【5.呼吸運動の調節】

1.呼吸調節で正しいのはどれか。(1-37-P63)
①延髄の呼吸中枢には呼息中枢と吸息中枢とがある。
②吸息で肺が伸展すると呼息が抑制される。
③血液のpHが低下すると呼吸運動が抑制される。
④動脈血酸素分圧が低下すると呼吸運動が抑制される。

2.呼吸の化学受容器反射を起こすのはどれか。(4-37-P64)
①動脈血中の酸素分圧増加
②動脈血中の炭酸ガス分圧増加
③静脈血中の酸素分圧増加
④静脈血中の炭酸ガス分圧増加

3.呼吸調節におけるヘーリング・ブロイエル反射について正しい記述はどれか。(5-38-P64)
①受容器は圧受容器である。
②求心路は交感神経である。
③反射中枢は視床にある。
④吸息中枢が抑制される。

4.ヘーリング・ブロイエル反射(肺迷走神経反射)で正しいのはどれか。(7-39-P64)
①咳を起こす反射
②あくびを誘発する反射
③吸息を抑制する反射
④呼息を抑制する反射

5.呼吸の反射性調節について正しい組合せはどれか。(10-37-P64)
①動脈酸素分圧の低下―――呼吸促進
②動脈二酸化炭素分圧の低下―――呼吸促進
③肺伸展受容器の興奮―――呼息抑制
④脳脊髄液中の水素イオン濃度の上昇――呼吸抑制

6. 正常時の呼吸調節で誤っている記述はどれか。
(12-37-P63.64)
①呼吸中枢は延髄にある。
②血液のpHが低下すると呼吸運動は促進する。
③吸息で肺が伸展すると吸息は抑制される。
④動脈血酸素分圧が低下すると呼吸運動が抑制される。

7. 呼吸促進が起こるのはどれか。(18-34-P64)
①大動脈小体の興奮
②動脈血酸素分圧の上昇
③肺伸展受容器の興奮
④脳脊髄液水素イオン濃度の低下

8. 頸動脈小体を刺激するのはどれか。
(21-34-P64)
①血液量の減少
②血液のpH 上昇
③血液の酸素ガス分圧減少
④動脈圧の上昇

9. ヘーリング・ブロイエル反射について正しいのはどれか。(23-28-P64)
①受容器は圧受容器である。
②求心路は交感神経である。
③反射中枢は視床下部にある。
④吸息中枢が抑制される。

10. 異常呼吸で、深い呼吸が規則正しく続くのはどれか。(26-29-P65)
①起坐呼吸
②ビオー呼吸
③クスマウル呼吸
④チェーン・ストークス呼吸

1①、2②、3④、4③、5①、6④、7①、8③、9④、10③

臨床医学総論

【胸部の触診】

声音振動：音声が胸壁を伝わる振動。

①減弱する疾患

：胸水貯留、気胸、肺気腫、喘息、気管支閉塞

②増強する疾患

：肺炎、肺結核、肺梗塞、気管支閉塞

【肺野の打診】

正常の肺野の打診音は清音である。

（1）異常打診音

①濁音を呈する疾患

：肺炎、肺化膿症、無気肺、胸膜炎、腹水貯留

②過共鳴音（清音に比べて持続時間が長く、音量が大きい）

：肺気腫、気胸

（2）肺肝境界

胸郭の打診で清音から濁音に変化する部位を肺肝境界という。

［健常者の肺肝境界］

前面	右鎖骨中線上で第 6 肋骨下縁ないし第 6 肋間
側胸部	右中腋窩線上で第 8 肋骨下縁
背面	右肩中線で第 10 肋骨、第 10 胸椎棘突起の高さ

①肺肝境界が低下する疾患：肺気腫

②肺肝境界が上昇する疾患：腹水,腹部腫瘤,妊娠

【肺野の聴診】

（1）呼吸音

呼吸音は空気が肺に出入り出る時に生じる音である。吸気時によく聴こえる。

①増強する疾患

：気管支炎、肺炎、肺結核

②減弱する疾患

：胸水貯留、気胸、肺気腫、無気肺、胸膜肥厚

（2）ラ音

①湿性ラ音：気道内に貯留した分泌物中を空気が通過する時の音。断続性。吸気時に強く聴取。

(例)閉塞性肺疾患、慢性気管支炎、気管支拡張症、肺炎、肺うっ血、肺結核、マイコプラズマ肺炎

②乾性ラ音：気管支、細気管支の狭窄部を空気が通過する時の音。連続性。吸気時に強く聴取。

(例)拘束性肺疾患、気管支喘息、肺気腫

③ベルクロラ音：小さな湿性のラ音で金属製の音。

(例)間質性肺炎(肺線維症)

【呼吸】

（1）呼吸数

呼吸数/脈拍比＝1：3～4

（2）異常呼吸数

①頻呼吸：24 回/分

　心不全、肺炎、髄膜炎、尿毒症

②徐呼吸：12 回/分

　脳圧亢進、気管支閉塞、モルヒネ中毒

③過呼吸：深さが増し、頻度は変わらない

　運動後の回復期

④起座呼吸：布団などに寄りかかって呼吸

　心臓喘息、気管支喘息

⑤下顎呼吸：呼気のたび下顎を下方に引く

　死線期の呼吸

（3）呼吸相の異常

①呼気延長

　気管支喘息、肺気腫、慢性気管支炎

②吸気延長

　咽頭・喉頭浮腫、声帯浮腫

【呼吸器】

1.呼吸音の強さに左右差が起こる疾患はどれか。
(7-65-P81)
①慢性気管支炎
②肺気腫
③自然気胸
④気管支喘息

2.聴診で呼吸音が減弱しないのはどれか。
(9-57-P97)
①気胸
②肺水腫
③肺気腫
④無気肺

3.体位ドレナージが有効な疾患はどれか。
(13-65-P153)
①気管支拡張症
②気管支喘息
③肺気腫
④肺水腫

4.樽状胸をきたすのはどれか。(14-54-P157)
①肺 炎
②肺気腫
③肺結核
④肺線維症

5.喀痰の性状と疾患の組み合わせで正しいのはどれか。(15-55-P170)
①膿性痰---気管支喘息
②錆色痰---大葉性肺炎
③漿液性痰---肺化膿症
④血性痰---間質性肺炎

6.呼吸音が減弱するのはどれか。(21-58-P237)
①気 胸
②気管支炎
③気管支肺炎
④肺結核

7.呼吸機能検査所見と疾患の組合せで正しいのはどれか。(23-52-P263)
①拘束性障害―慢性閉塞性肺疾患(COPD)
②閉塞性障害―肺結核後遺症
③拡散能低下―特発性肺線維症
④気道過敏性尤進―心臓性喘息

8.気管支喘息の聴診所見はどれか。
(26-47-P297)
①稔髪音
②水泡音
③笛音
④いびき音

9.咳・痰について正しいのはどれか。
(27-50-P311)
①痰を伴う咳を乾性咳嗽という。
②気管支喘息の発作時は咳・痰は通常ない。
③血痰が出ても少量なら肺癌は考えない。
④誤嚥時の咳・痰は防御反応の一つである。

10.呼吸機能検査で閉塞性換気障害を示すのはどれか。(29-42-P87)
①気管支喘息
②胸水貯留
③間質性肺炎
④肺動脈血栓塞栓症

1③、2②、3①、4②、5②、6①、7③、8③、9④、10

臨床医学各論

A.感染性呼吸器疾患

a.上気道炎（かぜ症候群）

b.急性気管支炎

c.肺炎

d.肺結核

B.閉塞性呼吸器疾患

どこかが閉塞されることにより、O_2とCO_2の入れ換えに障害が起こる。気道の閉塞で吸い込んだ空気をスムーズに吐き出せない状態。

a.肺気腫

b.慢性気管支炎

c.気管支喘息

C.拘束性呼吸器疾患

肺が膨らみにくくなり十分な呼吸ができない状態。

a.特発性肺線維症

D.その他の呼吸器疾患

a.気胸

b.肺癌

c.気管支拡張症

【感染性呼吸器疾患】

1.肺結核について正しいのはどれか。(1-78-P64)
①肺炎球菌の感染により発症する。
②発熱することはない。
③胸部エックス線検査は診断に有用である。
④ステロイドホルモンが治療に有用である。

2.急性肺炎の検査所見で誤っているのはどれか。
(4-72-P61)
①赤沈亢進
②CRP陽性
③好中球増多
④血小板増多

3.マイコプラズマ肺炎で正しい記述はどれか。
(9-70-P61)
①ウイルス性の疾患である。
②水痘様の発疹が出る。
③頑固な咳を伴う。
④成人に感染しない。

4.細菌性肺炎で変化しないのはどれか。
(12-83-P61)
①赤血球数
②CRP値
③赤血球沈降速度
④白血球数

5.肺結核の診断に用いられないのはどれか。
(12-85-P63)
①BCG
②喀痰検査
③胸部エックス線検査
④ツベルクリン反応

6.肺結核を疑う症状で適切でないのはどれか。
(17-71-P63)
①胸痛
②喀痰
③微熱
④咳嗽

7.マイコプラズマ肺炎で正しい記述はどれか。
(20-70-P63)
①老年者に頻度が高い。
②潜伏期は 2～3 日である。
③消化器病変はみられない。
④乾性咳が多い。

8.肺結核について正しいのはどれか。
(22-64-P63)
①接触感染の頻度が高い
②一次結核症の頻度が高い
③クオンティフェロン法は診断に用いられる
④糖尿病合併患者では再発率が低い

9. 肺炎について正しいのはどれか。(24-67-P61)
①原因はウイルス感染が多い。
②若年者は高齢者と比較して死亡する危険性が高い。
③肺炎球菌ワクチンの接種が推奨されている。
④マイコプラズマ肺炎では湿性咳嗽が多い。

10.肺抗酸菌症について正しいのはどれか。
(25-65-P63)
①結核患者は届け出る必要はない。
②咳が４週間以上持続している場合は肺結核を考慮する。
③抗結核薬は１剤を投与する。
④非結核性抗酸菌症も結核と同様に隔離する必要がある。

11.呼吸器感染症について正しいのはどれか。
(26-66-P61)
①上気道炎の治療は主に抗菌薬である。
②65 歳以上の高齢者には肺炎球菌ワクチンが推奨されている。
③インターフェロンγ遊離試験は非結核性抗酸菌症で陽性となる。
④日本の結核患者数は先進国の中では少ない。

12.呼吸器感染症について正しいのはどれか。
(28-66-P63)
①非結核性抗酸菌は人から人へ感染する。
②感冒の原因は主に細菌感染である。
③肺結核の治療は抗菌薬の単剤治療である。
④肺炎治療で菌の耐性化が問題となっている。

1③、2④、3③、4①、5①、6①、7④、8③、9③、10②、11②、12④

【閉塞性呼吸器疾患】

1.肺気腫の発症に最も関与する疾患はどれか。
(3-69-P66)
①胸膜炎
②気胸
③肺癌
④慢性気管支炎

2.肺気腫について誤っている記述はどれか。
(4-71-P66)
①ビール樽状胸郭を示す
②一秒率が低下する
③肺野のX線透過性が亢進する
④動脈血酸素分圧が上昇する

3.慢性気管支炎で誤っている記述はどれか。
(4-73-P68)
①喫煙により悪化する
②気道抵抗が増加する
③湿性ラ音が聴取される
④高熱を伴う

4.肺気腫の原因として適切でないのはどれか。
(6-79-P66)
①加齢
②肺癌
③慢性気管支炎
④喫煙

5.気管支喘息について正しい記述はどれか。
(7-83-P70)
①若年者より老人に多い。
②低酸素血症をきたしやずい。
③人工呼吸は禁忌である。
④予後は良好である。

6.慢性気管支炎について誤っている記述はどれか。
(13-82-P68)
①1か月以上持続する気管支炎をいう。
②閉塞性呼吸器疾患である。
③主な症状は湿性の咳嗽である。
④治療として禁煙が重要である。

7.慢性気管支炎について正しい記述はどれか。
(14-69-P68)
①拘束性呼吸器疾患である
②若年者に多い
③喫煙が発病の原因となる
④乾性の咳嗽を認める

8.気管支喘息について誤っている記述はどれか。
(17-70-P70)
①気道の炎症がみられる。
②気道の狭窄を呈する。
③発作時は咳嗽・息苦しさがみられる。
④肺機能検査では拘束性障害を示す。

9.肺気腫の病変部位でないのはどれか。
(19-69-P66)
①気管支
②終末細気管支
③呼吸細気管支
④肺胞

10.肺気腫について正しい記述はどれか。
(21-70-P66)
①肺胞の胞隔に線維化をきたす。
②CO2 ナルコーシスをきたす
③呼気は短縮する。
④肺機能検査で残気量が減少する。

11.肺気腫について正しいのはどれか。
(24-72-P66)
①漏斗胸がみられる。
②呼吸音が減弱する。
③吸気が延長する。
④残気量が減少する。

12.成人の気管支喘息について正しいのはどれか。
(25-64-P70)
①患者数は減少傾向にある。
②症状は昼間に起こりやすい。
③治療は吸入ステロイド薬が中心である。
④治癒率は 50%である。

13.COPD で正しいのはどれか。(27-65-P65)
①喫煙は関与しない。
②安静時の呼吸困難が特徴である。
③肺機能検査では閉塞性障害が特徴である。
④発作時に気管支狭窄音を伴う。

14.COPD について正しいのはどれか。
(28-67-P66)
①女性に多い。
②拘束性換気障害を呈する。
③安静時の呼吸困難が特徴である。
④増悪予防にはインフルエンザワクチン接種は有効である。

1④、2④、3④、4②、5②、6①、7③、8④、9①、10②、11②、12③、13③、14④

【拘束性呼吸器疾患】

1.肺線維症でみられないのはどれか。
(13-83-P71)
①胸痛
②乾性咳嗽
③息切れ
④肺活量減少

2.急性間質性肺炎について正しい記述はどれか。
(15-71-P71)
①若年者に多い
②肺コンプライアンスが低下する
③細菌感染が原因である
④予後は比較的良好である

3.特発性肺線維症をきたす危険因子でないのはどれか。(18-69-P71)
①喫煙
②過食
③薬剤
④感染

4.特発性肺線維症について、誤っている記述はどれか。(20-69-P71)
①60 歳代に多い。
②細菌性肺炎に含まれる。
③重篤な呼吸障害を生じる。
④肺胞隔壁に炎症・線維化をきたす。

1①、2②、3②、4②

【その他の呼吸器疾患】

1.気胸を疑う必要のある症状はどれか。
(1-79-P74)
①刺激性の咳
②嘔気
③呼吸数減少
④めまい

2.肺癌と関係ないのはどれか。(5-69-P75)
①ギラン・バレー症候群
②ホルネル症候群
③上大静脈症候群
④嗄声

3.肺癌の隣接臓器への浸潤による症状でないのはどれか。(10-71-P75)
①嚥下障害
②散瞳
③嗄声
④頸部静脈怒張

4.肺癌の診断に有用でないのはどれか。
(10-83-P78)
①喀痰検査
②気管支ファイバースコピー
③肺CT検査
④スパイログラフィー

5.小児のピーナッツによる気道異物で誤っているのはどれか。(12-69-?)
①一瞬の吸気とともに吸いこまれる。
②呼吸困難を呈する。
③咳嗽が消失したら排出されたと考える。
④肺炎を起こしやすい。

6. 原発性自然気胸について誤っているのどれか。
(16-65-P74)
①若年者に多い。
②肥満者に多い。
③喫煙者に多い。
④再発率が高い。

7. 原発性肺癌が頸部交感神経節に浸潤した場合にみられるのはどれか。(16-66-P77)
①うっ血乳頭
②血痰
③眼裂狭小
④女性化乳房

8. 肺癌の所見と浸潤部位との組合せで誤っているのはどれか。(19-70-P75)
①嗄 声 ――― 反回神経
②顔面浮腫 ―― 上大静脈
③縮 瞳 ――― 迷走神経
④呼吸困難 ―― 気管支

9. 肺癌の検査法で適切でないのはどれか。
(21-71-P75)
①超音波検査
②CT 検査
③MRI 検査
④PET(ポジトロン CT)検査

10. 気胸について正しい記述はどれか。
(21-72-P74)
①突然嗄声が出現する。
②肥満は危険因子である。
③自然気胸は成人女性に多い。
④緊張性気胸は緊急処置が必要となる。

11. 自然気胸について正しいのはどれか。(23-71-P74)
①女性に多い。
②肥満者が多い。
③胸痛をきたすことが多い。
④緊張性気胸となることはない。

12. 肺癌患者にみられる所見と浸潤部位の組合せで正しいのはどれか。(25-61-P75)
①嗄声―交感神経
②顔面浮腫―上大静脈
③縮瞳―反回神経
④腰痛―横隔神経

13. 肺癌について正しいのはどれか。(26-62-P75)
①死亡数は女性が多い。
②骨転移はまれである。
③小細胞癌が最も多い。
④受動喫煙は危険因子である。

14.「67 歳の女性。胸部エックス線写真で右上肺野の末梢側に 2cm 大の結節影があり、気管支内視鏡検査で肺癌と診断された。」最も可能性が高い組織型はどれか。(27-79-P76)
①腺癌
②小細胞癌
③大細胞癌
④扁平上皮癌

15.「67 歳の女性。胸部エックス線写真で右上肺野の末梢側に 2cm 大の結節影があり、気管支内視鏡検査で肺癌と診断された。」遠隔転移を調べる上で必要な検査はどれか。(27-80-P78)
①呼吸機能
②冠動脈造影
③脳造影 MRI
④心エコー

16.呼吸器疾患について正しいのはどれか。
(29-61-P74)
①自然気胸は胸痛を伴う。
②肺線維症は閉塞性換気障害をきたす。
③気管支喘息による死亡者数は増加している。
④COPD は安静時の呼吸困難が特徴的である。

1①、2①、3②、4④、5③、6②、7③、8③、9①、10④、
11③、12②、13④、14①、15③、16①

東洋医学臨床論（現代系）

【呼吸器】

1. 小児気管支喘息に対する鍼灸治療で適切なのはどれか。(1-136-喘息)
①喘息発作中はまず天突に刺鍼する。
②六十九難によれば肺経では太淵を用いる。
③体性内臓反射理論によればTh5－Th7の脊髄分節上の経穴を刺激する。
④募穴を用いる場合は膻中を用いる。

2. 気管支喘息の治療目的として適切な記述はどれか。(3-131-喘息)
①気管支筋の緊張を緩める。
②副交感神経の興奮性を高める。
③咽頭反射を高める。
④気道の過敏性を高める。

3. 高齢者の肺気腫に対する鍼施術で気胸を起こさないよう注意しなければならない経穴はどれか。(6-140-気胸)
①定喘
②天突
③膏肓
④膻中

4. 小児気管支喘息の発作予防の施術で適切でないのはどれか。(13-130-喘息)
①肺経の接触鍼
②前胸部の管散術
③背部兪穴の知熱灸
④腹部の多壮灸

5.「67歳の男性。数年にわたる湿性咳嗽と息切れで病院の治療を継続中である。」原因疾患で可能性が低いのはどれか。(15-139-肺炎)
①気管支拡張症
②慢性気管支炎
③気管支喘息
④間質性肺炎

6.「67歳の男性。数年にわたる湿性咳嗽と息切れで病院の治療を継続中である。」東洋医学の診察では肺虚証であった。「虚すればその母を補う」の原則に基づく選穴で正しいのはどれか。(15-140-肺炎)
①大敦
②陰谷
③太白
④足通谷

7.「35 歳の男性。肩痛みに対する鍼治療を受けた後から咳、胸痛、呼吸困難、冷汗が出現した。声音振盪が減弱している。」最も優先されるべき検査はどれか。(17-137-気胸)
①胸部エックス線検査
②呼吸機能検査
③超音波検査
④心電図検査

8.「35 歳の男性。肩痛みに対する鍼治療を受けた後から咳、胸痛、呼吸困難、冷汗が出現した。声音振盪が減弱している。」「深く刺しすぎると呼吸困難を引き起こす」と指摘されている経穴はどれか。(17-138-気胸)
①巨骨
②天宗
③肩井
④肩髃

9.「68 歳の男性。主訴は呼吸困難。体を動かすと呼吸が苦しくなる。樽状胸を呈し、痩せている。呼吸機能検査で 1 秒率の低下および胸部エックス線写真で肺野の透過性亢進を認めた。ブリンクマン指数は 960。」本症例の疾患で最も考えられるのはどれか。
(25-135-COPD)
①気管支拡張症
②肺癌
③COPD
④間質性肺炎

10.「68 歳の男性。主訴は呼吸困難。体を動かすと呼吸が苦しくなる。樽状胸を呈し、痩せている。呼吸機能検査で 1 秒率の低下および胸部エックス線写真で肺野の透過性亢進を認めた。ブリンクマン指数は960。」本症例の呼吸機能を改善することを目的とした鍼治療で、最も適切な対象となる筋はどれか。
(25-136-COPD)
①大胸筋
②棘上筋
③菱形筋
④前鋸筋

1②、2①、3③、4④、5④、6③、7①、8③、9③、10①

経絡経穴学

1.聴診三角にあたる経穴はどれか。
(23-108-体表指標・聴診三角)
①魄戸
②膏肓
③譩譆
④魂門

2.鍼の深刺により気胸発生の危険性が最も高いのはどれか。(26-111-気胸)
①臓会
②血会
③肺の募穴
④心の募穴

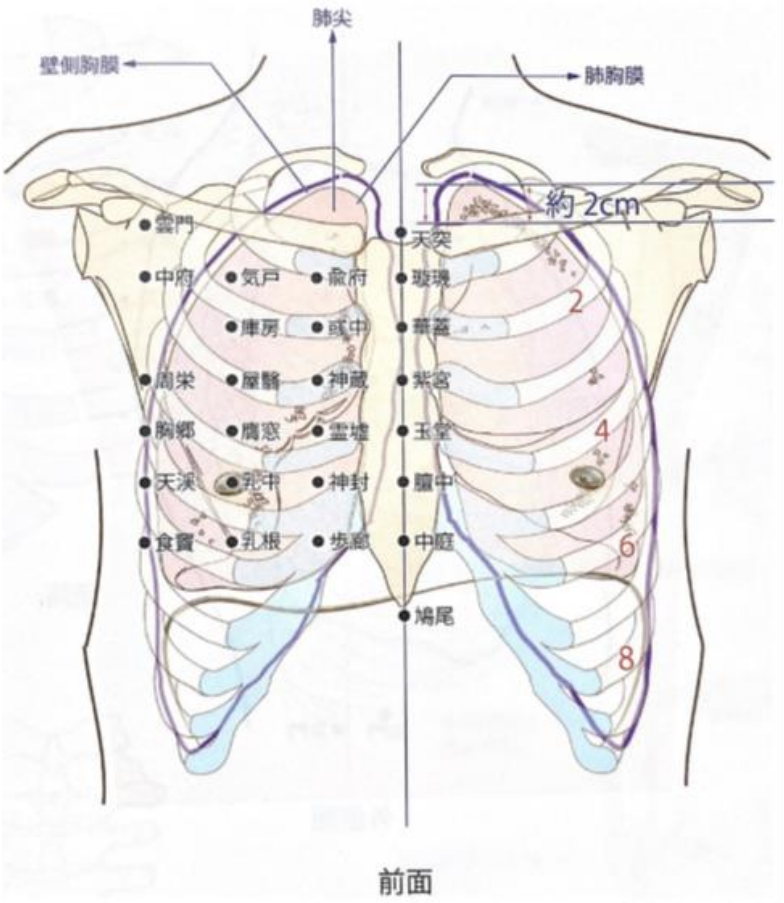
3.胸背部の打診法で清音が聴取される部位に位置する経穴はどれか。(28-107-P78)
①膻中
②屋翳
③中府
④章門

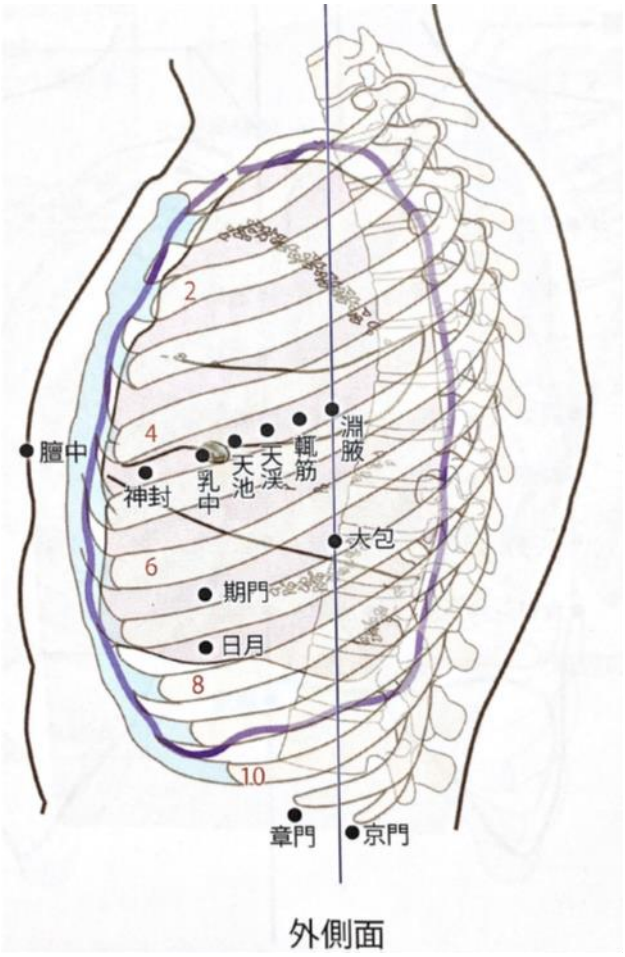
13.標準体型の男性において直刺で刺鍼した場合、肺を損傷するリスクが最も高いのはどれか。
(29-117-P102)
①肺の募穴
②任脈の絡穴
③胃の背部兪穴
④脾の大絡の絡穴

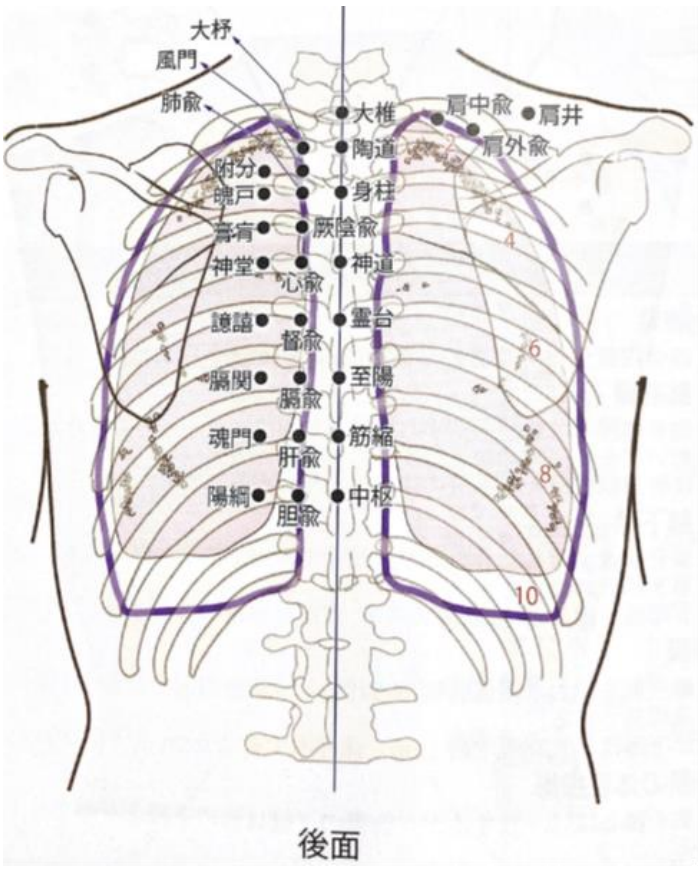
14.鍼施術で気胸を起こすリスクが最も高い経穴はどれか。(29-127-P138)
①天 宗
②身 柱
③附 分
④三焦兪

1③、2②、3②

呼吸器







王暁明 著『カラー版経穴マップ　第２版』医歯薬出版株式会社